

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成26年2月27日(2014.2.27)

【公表番号】特表2014-501186(P2014-501186A)

【公表日】平成26年1月20日(2014.1.20)

【年通号数】公開・登録公報2014-003

【出願番号】特願2013-546555(P2013-546555)

【国際特許分類】

B 2 9 C 47/02 (2006.01)

B 2 9 L 9/00 (2006.01)

【F I】

B 2 9 C 47/02

B 2 9 L 9:00

【手続補正書】

【提出日】平成25年12月16日(2013.12.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ワイヤ上にポリマーコーティングを押し出すためのダイアセンブリであって、前記ダイアセンブリが中心長手方向軸を有し、

A．外側面、およびワイヤが通過することができる経路を含むダイチップであって、前記経路が前記ダイアセンブリの前記中心長手方向軸に沿って配置された、ダイチップと、

B．胴部および頭部を含むダイ本体であって、前記胴部および前記頭部のそれぞれが内側面および外側面を含み、前記頭部が経路をさらに含み、前記頭部の経路がダイランド部を含み、前記ダイ本体胴部が、前記ダイチップの前記外側面と前記ダイ本体胴部の前記内側面との間に環状空間を画定するように前記ダイチップの周りに配置され、前記ダイ本体頭部は、前記ダイ本体胴部およびダイチップを越えて延在し、かつ前記ダイ本体頭部の前記経路が前記ダイアセンブリの前記中心長手方向軸上に存在し前記ダイチップの前記経路と位置合わせされるように配置され、前記胴部および頭部の前記内側面が、溶融ポリマーが前記環状空間を通って移動し、ワイヤが前記ダイ本体頭部を通過するときに前記ワイヤ上に被覆することができるように互いに連続する、ダイ本体と、

C．内側面を含み、前記ダイ本体の前記外側面の周りに配置され前記外側面と接触するダイホルダと、

D．前記ダイ本体頭部の前記ダイランド部の前記外側面の周りに配置され前記外側面と接触する放熱器と

を備えるダイアセンブリ。

【請求項2】

前記放熱器が、空気分配器および送風ピストルを備える冷却リングを含み、冷却媒体の供給源と流体連通する、請求項1に記載のダイアセンブリ。

【請求項3】

前記冷却媒体が圧縮空気である、請求項2に記載のダイアセンブリ。

【請求項4】

前記ダイチップ経路および前記頭部経路が管状である、請求項1～3のいずれかに記載のダイアセンブリ。

**【請求項 5】**

つや消し仕上げを有する被覆ワイヤの作製方法であって、溶融ポリマー組成物をワイヤに施した後、かつ前記溶融ポリマー組成物が前記ダイアセンブリから流出する前に、前記溶融組成物が、前記組成物のバルク温度を下回る温度を有するダイランド部を通り過ぎダイランド部と接触することを条件として、前記バルク温度を有する前記溶融ポリマー組成物を前記ワイヤ上に押し出すステップを含む方法。